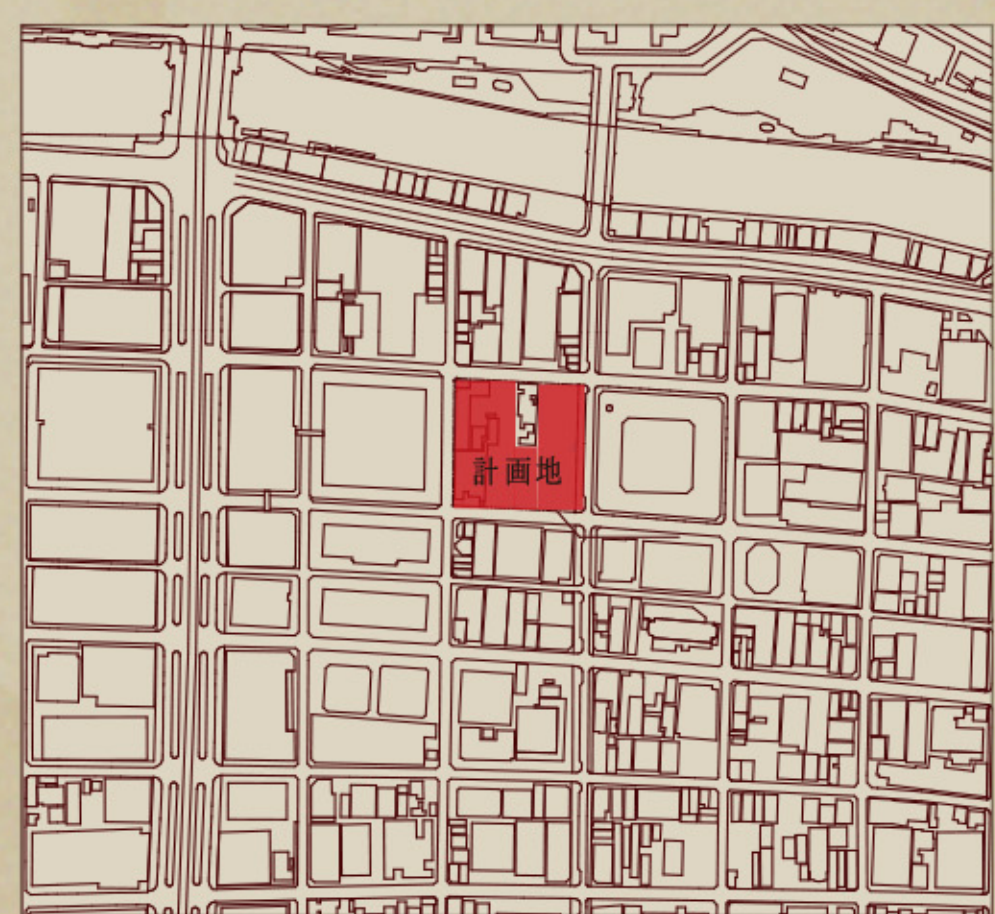


保存と継承

01 船場（大阪市）

南北2.1km、東西1.1kmの範囲に、碁盤の目状に作られた船場のまち。水運を活かした城下町から商都、そして近代的な都市へと変わってきた船場のまちだが、近年では居住地としても再び人気を呼んでいる。なかでも、さまざまに活用されて幅広い世代で賑わうレトロビルは長い歴史が折り重なる船場というまちの現在を象徴している。



02 適塾

適塾は昭和16年に国の史跡として、昭和39年に重要文化財として指定された。昭和17年緒方家から国（大阪帝国大学）に建物が寄贈され、今日にいたっている。適塾は現存するわが国唯一の蘭学塾の遺構であり、江戸末期の大阪の船場町屋の遺構としても貴重なものであって、昭和51年から実質5年をかけて解体修理を行い、修復を機に広く一般に公開している。



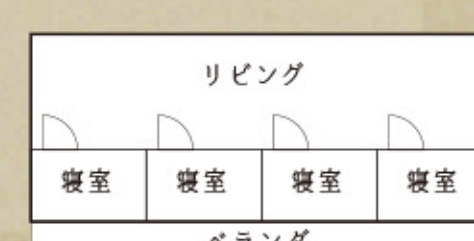
緒方洪庵（1810～1863）

03 設計意図

現存する適塾はそのまま「保存」しつつ、その一画に新たな学びを創出するためのサテライトキャンパスを計画する。船場地区の伝統的なレトロな雰囲気と近代的な都市景観を損なわないために、また適塾にみられるような大阪の古き良き建築を「継承」するために、町屋キャンパスを提案する。町屋キャンパスを構成する大きな3つの要素がある。それは、学舎エリア、図書館エリア、学生寮エリアである。それぞれのエリアは互いに重なりながらも、公私のバランスを保ち、機能し続ける。

04 ダイアグラム

平面操作



学生寮では、4人の学生1組の生活ユニットをつくる。学生それぞれが個室を持つことでプライベートな空間が保たれる。一方、リビングとベランダをシェアすることで、かつての適塾のような「共に生活し、共に学ぶ空間」が生まれる。



生活ユニットを連結することで、共有空間が広がり、より多くの交流を誘発する。

断面操作

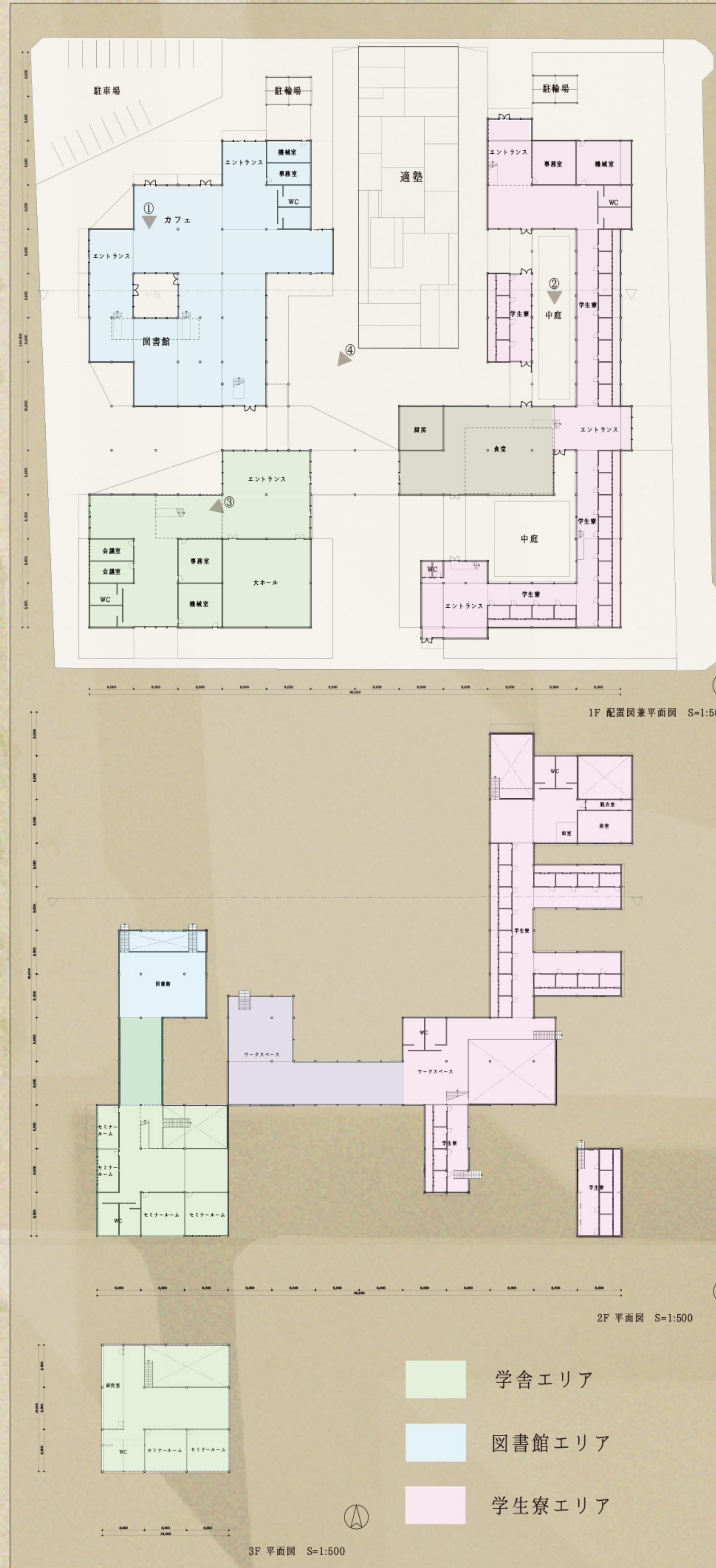
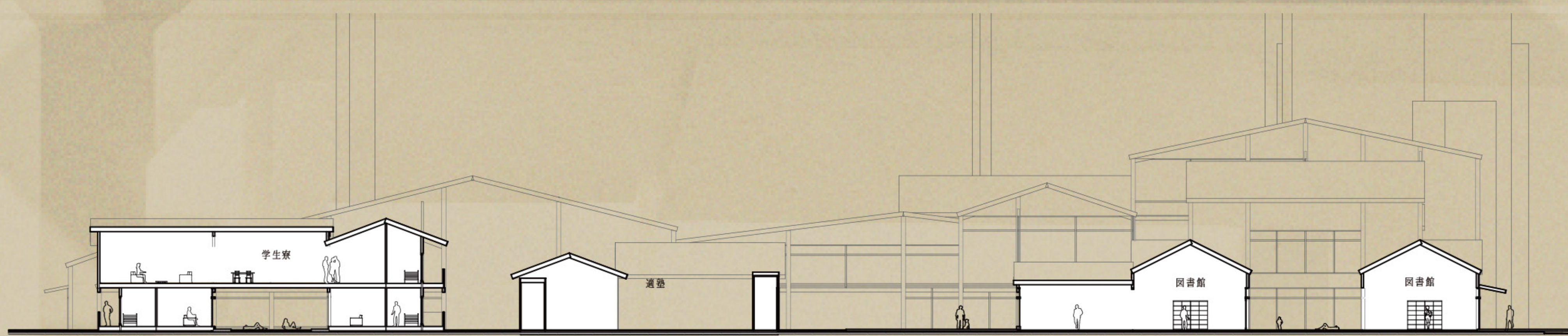


個々に機能する町屋同士をつなげることで、空間が広がり、その機能が助長される。また、町屋同士を離すことで交流の場となる外部空間が生まれる。



町屋の上に町屋を積むことによって、内部空間で動線がとなり、キャンパス全体の一体感が生まれる。

28の町屋が 織り成す キャンパス



① 図書館エリア

図書館とカフェを併設しており、子供から大人まで地域住民が利用可能

③ 学舎エリア

1棟の大きな町屋に教育・研究機能を集約。吹抜けが開放感を生む。

② 学生寮エリア

適塾の在り方を継承した、学生たちが「共に生活し、共に学ぶ」空間

④ 広大で緑豊かな公園と 宙に浮くワークスペース

学生、職員、地域住民が交流する船場地区の新たな拠点となる。